

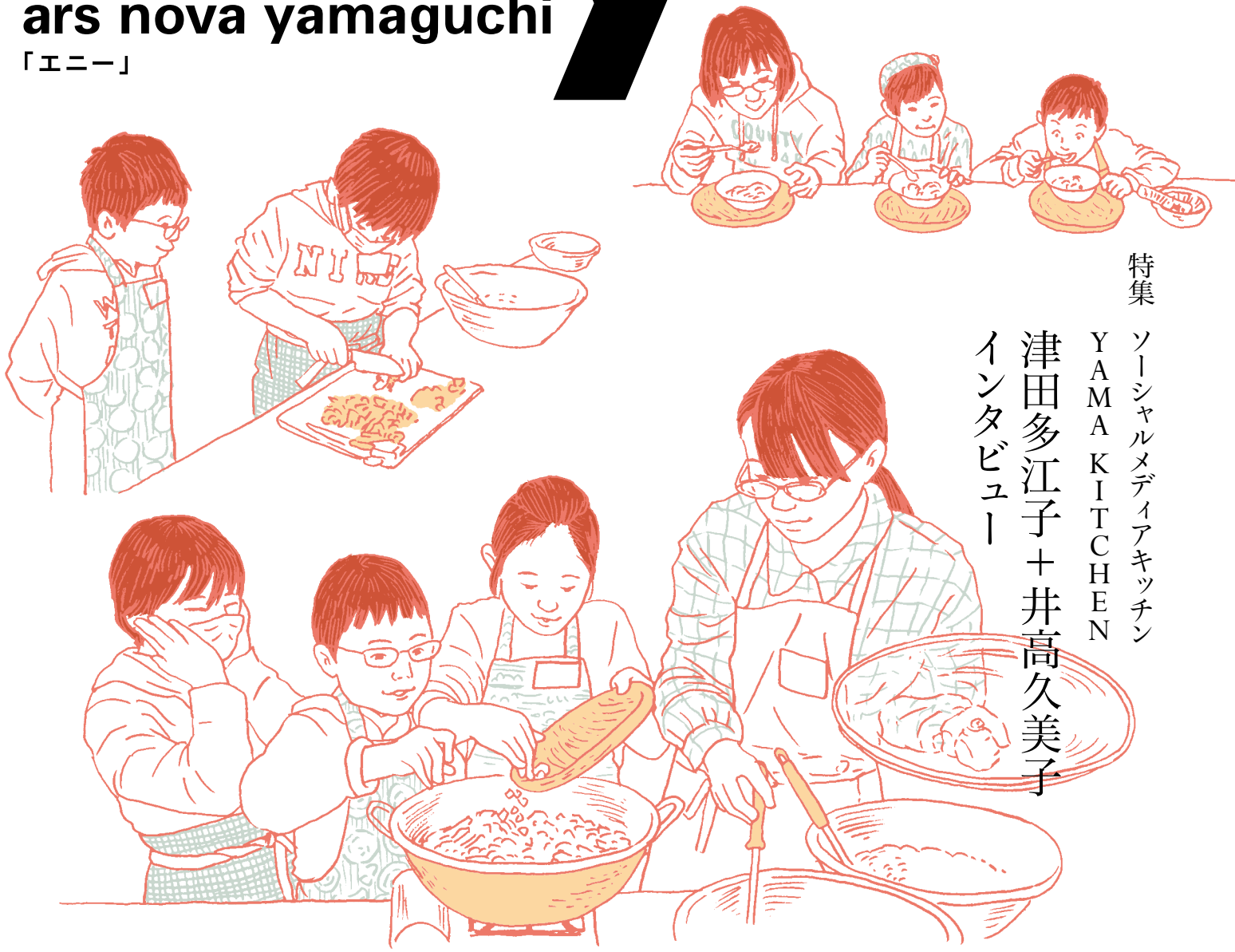
any

ars nova yamaguchi

「エニー」

spring 2016
Apr.—Jun.

96



特集

ソーシャルメディアキッチン
YAMA KITCHEN

津田多江子 + 井高久美子
インタビュー

みんながつながるキッチン



特集

03 みんながつながる
キッチン

特集 みんなのソーシャルメディアキッチン
YAMA KITCHEN

ピックアップイベント

08 みんなの声届いていますか?

山口情報芸術センター

子どもたちが創造するメディア公園

コロガルガーデン

—YCAMの人気企画「コロガル公園」シリーズが戻ってくる!

中原中也記念館

企画展I

「DADA 1916 → 1923 ツアラそして中也」

—ダダイズム発生から100年

山口市民会館

豪華競演! 特撰落語会

林家木久扇・三遊亭好楽・林家たい平 三人会

—「笑点」の人気出演者3人が集結!

斉藤和義 KAZUYOSHI SAITO LIVE TOUR

2015-2016“風の果てまで”

—半年かけてまわるツアーの終盤で山口に

12 any 通信

- ◎アーティストボイス ムン・キョンウォン (アーティスト)
- ◎お先に試写しました 「ふたりの桃源郷」(佐々木聡監督)
- ◎いらっしやいませ 原口珈琲
- ◎GOOD GOODS カタログブック(展覧会「Think Things—『もの』と『あそび』の生態系」)
- ◎My Favorite 田吹紗衣 (中原中也記念館 職員)

14 イベントカレンダー 4~6月
INFORMATION

みんながつながる
キッチン

特集 ソーシャルメディアキッチン YAMA KITCHEN

インタビュー 津田多江子 + 井高久美子

(Life & eat club)

(YCAMアート担当)

みんなで調理をしてお互いのレシピを交換する「シェアキッチン」、YCAMスタッフやプロジェクトに関わりのあるゲストが思い入れのあるレシピを披露する「1日店長」、子どもたちが参加する食のワークショップ「キッズキッチン」採れたての新鮮野菜が購入できる「マルシェ」…。 “YAMA KITCHEN”は、食べること・料理することを介してたくさんの人と情報が交流する場です。

インタビュー写真: 田邊アツシ



津田多江子 Tsuda Taeko

山口市在住。栄養士。Life&eat club代表。生活と食をベースにゆるやかな場をつくり、日常を美しく創造的に考えていく試みを企画・運営実施している。

井高久美子 Idaka Kumiko

1982年生まれ。愛知県出身。2012年4月、YCAMのスタッフに着任。「地域に潜るアジア」などの展覧会やワークショップ、地域資源の活用に関する研究開発プロジェクトの企画などを担当。

YCAMの井高久美子さんのお二人にYAMA KITCHENの始まりや、思いをお聞きしました。

「キッチン」をめぐる様々な企画を実験的に展開してきた津田多江子さんとYCAMの井高久美子さんのお二人にYAMA KITCHENの始まりや、思いをお聞きしました。

山口市内で食と文化について活動を行っている津田多江子さんとYCAMとが共同で、



写真:上)「キッズキッチン」の様子。「きのこ」をテーマに、子どもたちが、きのこの栽培や観察をしたり、料理をして味わうなど五感を使って体験。 写真:左下) YCAMスタッフが1日店長をつとめ、「コリアンナイト」で韓国の家庭の味「キンパブ」を作った。 写真:右下) 映画監督の柴田剛さんが1日店長をつとめた「フィルムファクトリーナイト」。監督の得意料理「坦担鍋」を作った。

情報交換の場であるキッチン ＝ソーシャルメディアキッチン

YAMA KITCHENのコンセプトである「ソーシャルメディアキッチン」とは？

井高 これは津田さんが考えてくださった言葉で、情報交換の場、メディアとしてのキッチンというアイデアを提案してくださいました。キッチンを通じて言葉が交わされ、情報が交わっていく場所。こういう場を設計することが、情報を伝達するということにつながる、それはとてもおもしろい考え方で、津田さんからこういうアイデアを提案いただき、とても素晴らしいと思いました。

そもそも津田さんはこれまでどのような活動をされてきたのか教えていただけますか？

津田 私は食や芸術文化がもっている

可能性を考えたくて、2009年から「Life & eat club」という活動を始めました。食を芸術文化に近づけたり、芸術から食文化に近づいていくような活動をしているアーティストの作品と一緒に鑑賞したり、アーティストに実際に来てもらって話をしてもらったり、交流したり、そこで得た情報を子どもたちへアウトプットするといった活動をしている団体です。

生活全般とアートの関係は結びついていなかったから、あえてこの2つの関係性を探ろうと思った。

栄養士である津田さんがアートにも興味をもたれたきっかけは？

津田 もともと小さい時から美術館で作



写真:右上)「キッズキッチン」で、自分たちが作ったきのこ料理を試食。 写真:左下)「キッズキッチン」で、きのこについてレクチャーを受ける子どもたち。 写真:右下)「珈琲ドリップワークショップ」の様子。スタッフに教えてもらいながらコーヒーをハンドドリップでいれることができる。

品を観たり、デパートのなかにあるギャラリーや展示会場にある美術作品を観に行ったりするのは、趣味で日常的にしていたことでした。山口県立美術館にもよく行っていたし、ここYCAMも頻りに利用させてもらっていて、映画もよく観て来たので、うーん、美術の愛好家というのかな？

井高 でも、なぜ食とアートを結び付けようと思ったんですか？

津田 生活全般とアートを、ということなんですが、結びついていなかったから、あえてこの2つの関係性を探ろうと思って、その結び目を一生懸命探していた、という感じです。いろんな人の価値観でそこがどうつながっていくのかを知りたかったので、そういう場を作ろうと、これまでいくつかの講座やワークショップなどを企画してきました。

津田さんとYCAMとのつながりは？

津田 YCAMの企画で、「meet the artist」という市民参加型のプロジェクトがあって、桂英史さんを講師に、図書館で聴けるラジオを作る「ライブラリーラジオ」というワークショップに参加していました。同時期に「tecpot」というものづくりに役立つ技術、ノウハウが学べるワークショップがYCAMで行われていて、そこでソフトウェアの使い方を教わり、「Life & eat club」の活動をまとめたガイドブックを作ったことも。あと、「Life & eat club」でYCAMのスタッフの方々にレクチャーをしてもらったり、井高さんにもモデレーターで参加していただいたことがありましたよね。

井高 そのときに参加して思ったのは、決して潤沢に予算があるわけじゃないのに地道に活動をやられている。しかも、

やっている内容もおもしろい。

津田 それがおもしろいのは、そこに食がからんでいるからじゃないかなと思っていて…。食の視点からみるとアーティストの動きはとてもおもしろいんですよ。今年1月にYAMA KITCHENで、映画監督の柴田剛さんが1日店長をされた「フィルムファクトリーナイト」というイベントのときも、料理の専門家ではない動きをされていました。厨房のなかの使い方とか。

井高 確かに面白かった！登場人物を並べると、素材とか調味料を並べていたり。

津田 きっと大事なものの順、興味のあるもの順なんだよね。柴田さんはここで自分の提供する料理をどう参加者とシェアするかをずっと考えていて、その構成の仕方が、映画の作品作りみたいだなと思っていました。

わかる！
キーワード

【地域に潜るアジア:参加するオープンラボラトリー】 山口情報芸術センターで、2014年7～9月に行われた展覧会。日本や東南アジアからやって来たアーティストが山口の各地域に潜り、さまざまなフィールドワークをもとに掘り起した課題や資源を、会場内に設置された5つのラボラトリー（実験室・工房）で提示。その場を訪れる人々とアーティストが言葉をお互いに交わすことで様々な知見や問題解決のアイデアを交換する「場」を創出した。

YAMA KITCHENが始まったきっかけは?

井高 始まりは、「地域に潜るアジア」という展示会を2014年にYCAMで行ったときです。東南アジアを中心にアーティストを何組か迎えて展示会を行ったのですが、そのなかに、マレーシアから来たオペラシ・キャッサバさんという2人組がいて、東南アジアで普及していた南米原産のいもである“キャッサバ”にまつわるお話だとか、レシピを集めていくということをやっていた方々でした。この展示会のコンセプトとして、アジアのアーティストが自分たちのプロジェクトをただ紹介するのではなく、お互いの地域性を交換していくようなことをやりたいと考えていたので、YCAMの館内で食物の“キャッサバ”の畑を作って育ててみたり、“キャッサバ”を調理して食べてもらうワークショップをしたり、地元の方と海外から来たアーティストとが直接話ができるような

イベントを企画したりしました。食べることをとおして異文化を理解してもらう、体感してもらう、ということができるといいなと。そのときに、以前から食と文化をつなぐ活動をされている津田さんにも関わってもらいたいとお声掛けしたんです。

津田 YAMA KITCHENのような活動をやってみたいと思った最初の目的は、場所があるということよりも、アーティストが町のなかに出ていき、生活のなかに入り込むことでどういうことが起こるか、そういうことが体験できる場を作ってみたくったんです。そんな話をちょうどYCAMに相談していたところに、じゃあギャラリー用の場所が(山口市中心商店街そばの)駅通りにあるから、そこでまずはやってみましょう、という話になって、2014年の夏に期間限定で仮設のキッチンスペースをオープンさせました。

井高 YAMA KITCHENを始める際には、展示会の会場構成をしてくださった大阪の建築家ユニット、ドットアーキテクトさんのアイデアも大きかったですよね。ドットアーキテクトさんは、小豆島の馬木という集落で、採れすぎてあまった野菜を誰でも料理して食べられる場所を作ろうと、シェアキッチンを作られたことがあるそうです。YAMA KITCHENのコンセプトをドットさんにお話して、展示会会場とは別にキッチンと一緒に作ってくれないかとお願したところ、快諾してもらい、せっかくなら外に運び出せるようなポータブルなキッチンにしようとか、みんなでアイデアを出しあって実現しました。

津田 やり始めた頃は人が少なくて淋しいときもあったけど、情報をキャッチして来てくれる人が徐々に増えてきました。しかも、最初にお客さんで来てくれた方が、いまはコアスタッフとして一緒に働いてくれています。

井高 ゲストもホストもなかったですもんね。お客さんが洗いものをしていたり、気づくとお客さんがカウンターに立っていることも(笑)。そういう関係がなんだかとってもいいなと思っていました。

津田 一番初めのYAMA KITCHENの場所は、洗い場も狭かったし、キッチンのすぐそばにトイレがあったから、狭いところを通りながらみんなでやっていたので。**井高** お客さんとして来るんじゃないかと、ほんとうにその場をみんなでシェアして使っていた、という感じでした。

言葉を乗り越えたコミュニケーションが成立する。

YCAMに普段アート作品を見に来るお客さんとはまったく違う世代や職業の方々がYAMA KITCHENを訪れてますよね?

津田 通りすがりの人もいたし、YCAMを普段訪れないような人がたくさん来てくれていました。そこにYCAMの人も「こんにちは」っていいながら参加しに来たり。

井高 確かにそう。でも食べるという切り口は誰にでも共通することで、どんな職業の人も食事をするし、どの文化圏の人にとってもキッチンというのは共通言語です。マレーシアからのゲスト、スーギー・スレイマンさんを講師に英語オンリーで料理ワークショップをしたことがあったんですが、もちろん参加者のなかには英語が話せない人もいたし、5歳以下の子どもたちもいっぱいいたけど、結局そんなことは関係なく、食材があって匂いをかいでみたり、全然みたことのない調味料に驚いたり、みんな楽しんで調理していました。食材とかキッチンとかそういうところに共通言語があるから、言葉を乗り越えたコミュニケーションが成立するんですね。

4月以降はどのような活動を展開されるのでしょうか?

井高 まだはっきり決まっていますが、色んな利用の仕方も増えてきていて、やればやるほど何かが定着していつかいる感じはあるので、やはり時間をかけて色々実験できるといいなと思っています。あと、出張キッチンのようなこともやっていきたいですね。こんなふうに立派なキッチン設備が

必ずしもいるわけではなくて、色んな形でできますよね。このコンセプトだったら。

津田 なかなかここまで足を運ばない人もいるだろうし、そういう人たちのもとへニーズがあれば行きたいなと思います。場所がなくてもできることもあるし。

利用者のアイデアが実現したりも?

津田 今までにも利用者の方の持ち込み企画をやったことはありますよ。パンケーキを焼いて少女漫画を読むというイベントや、大学の先生が海外のアートフェスティバルを観に行ったその報告会や、シルバーアクセサリーのワークショップとか。

井高 利用してもらった人たちのなかで、この場をもっと活用しようという、そんな気持ちが芽生えてくれば、利用者自身が提案をして何かを生み出していく場になるだろうし、それがほんとうに公共のキッチンになっていくのではないかと考えています。

人が交流して できあがる空間が キッチン



お二人にとってキッチンとは?

井高 私にとっては出会いの場でもあるし、学びの場です。自分にとってもこのプロジェクトはとても刺激があって、普段YCAMで展示会の企画をやっているだけだったら出会うことのなかった地元の方々とYAMA KITCHENを媒介に知り合うことができました。密度の高いコミュニケーションがとれる場所、そこがキッチンのいいところだなと思っています。YCAMのなかにありながら、YCAMとは違う、利用者が主体となって何かをするところ、という感じがしています。

津田 ただ単に食べるものを作る場所だったり、誰かが作ったご飯をただ食べる場所というだけではなく、人が交流してできあがる空間がキッチンじゃないかなと思っているので、色んな人が抱く興味や関心で出来上がっていく場所であつたらいいなと思います。やっぱり出会いの場ですかね?

井高 ジャンクションみたいな場じゃないですか? 色んな人が来て交わるような。

密度の高い
コミュニケーションが
とれる場所、
そこがキッチンのいいところだな
と思っています。



IDAKA KUMIKO

食の視点からみると
アーティストの動きは
とてもおもしろいですよ。



TSUDA TAEKO

みんなのソーシャルメディアキッチン

YAMA KITCHEN

2016年4月～2017年3月(予定)

PRESENT

YAMA KITCHENで販売している山口の食材を使った加工品や、コーヒーチケットをプレゼントします。

【申込方法】ご希望の方は下記のプレゼント番号を明記の上、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、4月30日(土)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

A 百日紅の生姜シロップ (1名)

化学肥料・農薬を一切使用していない原材料で作ったおいしい生姜シロップ。



B 百日紅のみかんジャム (2名)

周防大島の浜本農園で栽培された無農薬・無化学肥料のみかんをたっぷり使ったジャム。

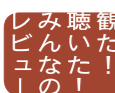


C YAMA KITCHEN コーヒーチケット (3名)

YAMA KITCHENで提供しているコーヒーが1杯飲めます。

【あて先】〒753-0075 山口市中国町7-7 (公財)山口市文化振興財団 「any vol.96 特集プレゼント」係 FAX:083-901-2216 e-mail:any@ycfcp.or.jp

*当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。



●普段見られない角度、構造から自然を鑑賞できおもしろかったです。絨毯のデザインの発想にも驚きました。(20代女性「プロミスパーク」より)
●はじめての人とこれだけ盛り上がり楽しかったです!久しぶりの「運動会」でした!!(20代女性「未来の山口の運動会」より)
●新宿の当時の様子と中野の人となり、他にも関係した有名人との交流が分かり、再発見できました。(50代男性「中野の住んだ町-新宿」より)
●中原中野の詩を見ることで、彼の心情の変化や時代の変化を感じることができた。(10代女性「中野 祈りの詩」より)



●市民のみなさんとスタッフ、出演者が一体となった素晴らしいコンサートでした。(50代男性「山口きずな音楽祭2015」より)
●ステージに上げられてびっくりしましたが、思い出に残りました。(女性「バキヤクニニニューイヤ-コンサート」より)
●本欄を再現してあったのがとてもイキで良かったです。(30代女性「中野の本欄-外国文学館」より)
●心が震え、涙がこみあげました。(60代女性「中野 祈りの詩」より)

いまですか？

近隣の小学校からやって来た子どもたちの元気な声、
 中也の詩や好きな作家たちの詩を朗読する思いのこもった声、
 ゲストミュージシャンの音楽と歌声…。
 言葉が誰かの声を通じて、また音楽になって響いていく。
 みんなの声が、あの空の向こうに届きますように。

届いて みんなの声

中原中也記念館の前庭をステージに、
 多くの人たちが詩を朗読し、ゲストによるコンサートが行われる、
 毎年恒例のイベント「空の下の朗読会」。
 山口を代表する天折の詩人・中原中也の
 生誕を祝うイベントが、今年も4月29日に開かれます。

昨年の「空の下の朗読会」の様子(ゲスト:サンタラ)



ゲスト
大宮エリー



Photo: 網中謙太

中原中也生誕祭「空の下の朗読会」

2016年4月29日(金・祝) 12:30~15:00 ※詩の朗読希望者は12:00より受付

会場: 中原中也記念館 前庭 (雨天の場合は、湯田温泉ユウベルホテル松政)

[ゲスト] 大宮エリー [料金] 無料(当日は記念館も入館無料)

PROFILE

1975年大阪生まれ。
 作家、脚本家、映画監督、
 演出家、画家、CMディレクター。

PICK UP EVENT! SPRING 2016
 ピックアップイベント

山口情報芸術センター(YCAM)

http://www.ycam.jp/

子どもたちが創造するメディア公園

コロガルガーデン

2016年6月18日(土)~9月4日(日) 10:00~18:00

会場: スタジオB、ホワイエ

YCAMの人気企画「コロガル公園」シリーズが戻ってくる!

2012年の初公開以来、子どもたちを中心に人気を集めてきた「コロガル公園」シリーズ。2012年はYCAM館内に、13年と14年にはYCAMの目の前の中央公園に登場。また札幌や東京でも開催し、多くの家族連れでにぎわい、好評を得ました。そんな人気企画が2年ぶりに山口に戻ってきます。

シリーズ6回目となる今回は、昨年東京の新宿・伊勢丹で使われた、階段状やトンネル状などの様々な巨大なブロック群で構成された「コロガルガーデン」がYCAMに出現します。会期中、子どもたちが、より楽しいあそび場にするためのアイデアを提案し合う「子どもあそび場ミーティング」も開催。採用されたアイデアは実際に新しい機能として追加され、会場はどんどん変化していきます。この夏は、創造力を刺激する楽しい学びの場「コロガルガーデン」へ遊びに行こう!!



東京・新宿伊勢丹で行われた「コロガルガーデン」の様子(2015)

わたしはココに注目する!

「子どもあそび場ミーティング」では、子どもたちからどんな斬新なアイデアが飛び出すのか!? また、そのアイデアに応える大人たち(YCAMのラボスタッフ)はどんなふう会場を改造していくのか!? その過程と結果にも注目してみてください。

料金 | 無料

イベントレポート

プロミス・パークー未来のパターンへのイメージネーション

YCAMで、2013年から3年間の歳月をかけて、韓国のアーティスト、ムン・キョンウォンと共同で、「未来の公園」をテーマに取り組んできた「プロミス・パークプロジェクト」。その集大成となる展示会が、昨年11月から今年2月14日まで行われました。

本展では、プロジェクトの中で行ってきた過去3年にわたるフィールドワークや資料調査に基づいた新作インスタレーションおよび「パーク・アトラス」(公園のアーカイブ)を公開。ホワイエの床面に敷き詰められた絨毯は、フィールドワークでとりためた映像からパターンを起こし、京都の西陣織の技術を用いて織られたものを使用。土日は親子連れがその絨毯の上に座ったり、寝転んだり、走りまわることが多く見られました。2階スタジオBでは、いまでは廃墟となった山口県内外の様々な近代産業遺構の映像をドローンによって撮影した映像インスタレーションを展示。小さなお子さんから年配の方まで幅広い世代の方が、その映像に入ると、時間を忘れて眺めていたのが印象に残りました。期間中多くの来場者が訪れ、海外からの視察もあるなど評判を集めた本作。今後は、韓国をはじめとした世界各国を巡っていきます。



mini PICK UP!

バイオ・リサーチ

2016年6月以降開始予定



アート施設に付随する国内初のラボとして、場所の改装や機材の搬入など、徐々に設立準備を進めてきたYCAM バイオ・ラボ。今年度からは、いよいよ、実際にこの環境を活用したプロジェクト「バイオ・リサーチ」を実施していきます。アーティストや研究者、専門家をまじえてのエデュケーションプログラムやアート作品への応用研究、また一般の方にも利用いただけるよう定期的にオープンデーをもうけ、いま世界的に注目を集めている「バイオ」に関するレクチャーや、実際に「バイオ」テクノロジーを扱った実験などを体験していただく機会を提供していきます。ぜひ今後のプロジェクトの進行にご注目ください。

YCAM解体

コミュニティ・スペース



「感覚アスレチックワークショップ」開催の様子

みなさん、YCAMの南側の玄関から入って左手にあるコーナー「コミュニティ・スペース」をご存知でしょうか? 市民のみなさんとの交流の場として、気軽にYCAMの活動に触れていただくオープンなスペースとして、昨年からは少しずつ改修がほどこされ、環境が整えられてきました。ここでは、主に教育普及を専門にしているYCAMスタッフと、研修を受けて活動している学生を中心としたサポート・スタッフが、月に3~4回のペースで土日祝日に、YCAMのオリジナルワークショップを開催したり、ミニ・レクチャー、小規模の展示などを行っています。来館された際に、何かイベントが行われているのを見かけたときには、ぜひお立ち寄りください。

観覧
 聴いた
 観た
 楽し
 ました
 ！

- ◎笑いあり、涙あり、感動あり、そして素晴らしい音楽。とても楽しい時間を過ごすことができました。(50代女性「パッケージニューニューイヤーコンサート」より)
- ◎小曾根さんのピアノの柔らかな音色とエリックさんの優しく暖かいトランペットの音色が溶け合って素晴らしい。(30代女性「クリスマス・ジャズセッション」より)
- ◎この展示を思い出しながら新宿の街を歩いてみたいと思いました。(20代女性「中也の住んだ町ー新宿」より)

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

企画展 I

「DADA 1916→1923 ツアラそして中也」

2016年4月20日(水)～7月24日(日)

ダダイズム発生から100年



ダダイストたち
(左からアルプ、ツアラ、リヒター)
／画像提供:思潮社

1916年、第一次世界大戦のさなかにスイスの都市チューリッヒで始まったダダイズム。「無意味」を旗印に世界中へ波及したこの芸術思潮は、1923年に発行された日本で最初のダダ詩集、高橋新吉『ダダイスト新吉の詩』を通じ、中原中也にも強い影響を与えました。

2016年はダダイズムが始まってからちょうど100年にあたります。本展では、ダダイズムの発生と様々な芸術的実験について、ダダイズムの立役者である詩人トリスタン・ツアラの活動を中心に紹介します。さらに、ダダイズムが中也にどのような影響を与えたのか、詩の鑑賞などを通じて探ります。

わたしはココに注目する!

「ダダを知らずして現代芸術を語るなかれ!」と言いたいくらい、斬新で刺激的なのがダダイズムです。常識をはるかに超えたパフォーマンスの数々。その実験精神が日本にそして中也にどう伝わったか? 展示をご覧ください!

入館料 一般 320円(270円)／大学生 210円(162円)

※あわせてテーマ展示もご覧いただけます。 ※18歳以下、70歳以上は無料 ※()内は20人以上団体料金

検定 中 也

これであなたも中也通!



「ダダイスト新吉の詩」表紙

Q 1923(大正12)年の秋、16歳の中也は京都で高橋新吉の詩集『ダダイスト新吉の詩』と出会い、強い影響を受けてダダイズムの詩を書き始めます。自分からダダイストを名乗り、人から「ダダさん」と呼ばれるほどの熱中ぶりでした。後に作風は変わりましたが、その影響は晩年の作品にも見ることが出来ます。さて、中也はどのようにしてこの詩集と出会ったのでしょうか。

- 1 古本屋で手に取った。
- 2 友人から勧められた。
- 3 作者から贈呈された。

答えは14ページ

【受賞者コメント】



カニエ・ナハ
KANIE Naha

不穏な時代に、危機を危機と感じられるうちに、楔を打っておきたい、一つにはそんな思いで、昨夏、5月から8月にかけて集中して制作した詩集です。このような詩集が評価していただけだと単純に喜ばしいことかどうかかわからないですが、緊張感をもって、今後も真剣に詩と、世界と、向きあっていたいと思います。この度はまことにありがとうございました。

1980年生まれ。東京在住。ブックデザイナー。「用意された食卓」(私家版)が、174点の応募・推薦詩集の中から第21回中原中也賞を受賞。

(『用意された食卓』所収「塔」より)

あなたの森は夜に
音もなく移動する
永遠に忘れること
あなたの小さな
すべての日であるその上に、
それは適度に雨を与え
虫が夜、燃えている
親しい友人になるために
生まれたとき、
人々が祈りの声で
小さな葉を
ふるわせて
出て行く日は
昔の闇に続いていく



受賞詩集

『用意された食卓』

第21回 中原中也賞

●ル・ヴェルヴェツの素晴らしい歌声、マイクいらぬです。トークの声もまた素敵。(40代女性 「山口さずな音楽祭2015」より)
●彼のフランスに対する思いは知らなかったので彼の仕事について勉強になりました。(50代女性 「中也の本棚—外国文学篇」より)
●みなさん楽しそうにセッションされていて、こちらもワクワクしました。(20代女性 「クリスマス・ジャズセッション」より)
●地図や写真が多く、実際に中也が生きていて生活していたのだということを感じた。(20代女性 「中也の住んだ町—新宿」より)

観 覧 聴 取
ビ ン だ
の !

山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

豪華競演! 特撰落語会

林家木久扇・三遊亭好楽・林家たい平 三人会

2016年4月16日(土) 14:00開演 (13:00開場)

会場:大ホール

「笑点」の人気出演者3人が集結!

誰もがご存知の長寿テレビ番組「笑点」に出演するお茶の間の人気者、林家木久扇、三遊亭好楽、林家たい平。3人が集う豪華な落語会が、今春、山口市民会館で催されます。

しゃれなどの言葉遊び、人情と粋、笑いど機智に富んだ奥深い話芸の世界を堪能できるのが落語の魅力。この度は、世代的異なる3人が、それぞれの持ち味をいかした三者三様の話芸を披露してくれます。ここ山口で彼らがどんな話を聞かせてくれるのか。目の前でプロの噺家たちの話芸を聴き比べることができる、まさに夢の競演をお楽しみください。



林家木久扇

三遊亭好楽

林家たい平

わたしはココに注目する!

3人それぞれの異なる話芸も楽しみですが、メンバー全員が「笑点」に出演しているということもあり、もしかすると、ここでしか聞けない番組の裏話が飛び出すかも!

チケット情報 発売中

料金 全席指定 前売 一般 4,500円 any会員 4,000円(1会員4枚まで)

斉藤和義 KAZUYOSHI SAITO LIVE TOUR

2015-2016「風の果てまで」

2016年5月30日(月) 18:30開演

会場:大ホール

半年をかけてまわるツアーの終盤で山口に

昨年秋にリリースした最新アルバム「風の果てまで」を引っ提げて、半年間かけて全国都道府県をめぐる長いツアーの旅に出たシンガー・ソングライター斉藤和義。季節は春になり、ツアーもようやく終盤を迎えるなか、山口では実に約6年ぶりとなるワンマンライブを行います。次々にヒットを飛ばし、ライブのみならず楽曲提供など、忙しくも精力的に活動する斉藤和義。その音楽家としての魅力が一番に感じられるのは、やはりライブを通じてほかなりません。昨年夏、山口市阿知須にあるきららドームで行われた野外フェス「ワイルドバンチフェス」のメインステージでは、熱のこもったライブパフォーマンスを披露し、鮮烈な印象を残しました。その熱をそのままに、ワンマンライブでもパワフルなステージをみせてくれることでしょう。



わたしはココに注目する!

半年間かけて全国各地をめぐってきた斉藤和義とバンドメンバーたち。山口公演は終盤となるため、ツアーでの思い出もたまっているはず。MCではどんな話が飛び出すのか、音楽とあわせて楽しみたい。

チケット情報 発売中

料金 全席指定 前売 一般 6,500円(1人4枚まで) ※3歳以上有料(3歳未満入場不可)

■特に記載のない場合、any会員割引は1会員2枚まで。
■いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。 ■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

mini PICK UP!

デビュー40周年記念コンサート・ツアー
松山千春の系譜

2016年4月22日(金)

18:30開演

会場:山口市民会館 大ホール



1977年に「旅立ち」でデビューして以来、衰えることのないたくまぬ歌謡力と、熱い人柄でファンを魅了し続けてきた松山千春。デビュー40周年を

記念し、今年4月に4枚組ベストアルバム「松山千春の系譜」を発売。またコンサート・ツアーで全国各地を駆け巡ります。山口には2013年ぶりの登場。往年のヒット曲から最新曲まで数々の名曲をしつとりと、また力を込めて歌い上げます。千春節炸裂のトークもあわせてお楽しみください。

[チケット情報] 発売中(残席わずか)

[料金] 全席指定

前売 一般 8,100円

any会員 7,800円

(1会員4枚まで)

mini PICK UP!

人形劇団クラルテ
「11びきのねこ だるまこ」

2016年5月13日(金)

18:30開演

会場:山口市民会館 大ホール



仲良しでチームワーク抜群の11びきのねこたちが、様々な冒険や交流を繰り返して愛されてきた名作シリーズの第6作「11びきのねこ だるまこ」が、人形劇団クラルテの手によって舞台化され、5月に山口公演が行われます。命を吹き込まれたかのような生き生きとした人形の動きに目を奪われ、いつしか子どもも大人も一緒になって目の前の物語に夢中になることでしょう。絵本とは違った楽しみをこの舞台でみつけてください。

[チケット情報] 発売中

[料金] 全席自由 ※3歳以上有料

前売 一般 3,000円

any会員 2,700円

(1会員4枚まで)

当日 3,500円

any通信

あちこちに花咲く春。
笑顔も満開です。



2016年のYCAMの 動向が分かるガイドブック



参考写真: 昨年の
ガイドブック
(2015年版)

YCAMってどんな場所? イベントはいつ何をやっているの? そんな質問に答えるべくYCAMの活動を紹介するガイドブックの2016年度版が4月中旬に発行されます。今年ほどんなプロジェクトが展開していくのか。ほかの施設にはないYCAMならではの魅力がたくさん詰まったガイドブックになっています。プロジェクト

トに関わるアーティストとの対談や、市内のお薦めのお店の情報などもあわせて掲載。これを読めば2016年のYCAMが分かる! YCAMのポータルサイトと併用して活用ください。

21人目の 中原中也賞受賞者が決まる!!

去る2月13日に選考会が行われ、第21回の受賞作品が決定した中原中也賞。全国から集まった174点の詩集の中から、ブックデザイナーとして活躍されているカニエ・ナハさんの詩集「用意された食卓」が選ばれました。中也の誕生日である4月29日に賞の贈呈式が行われます。また、式終了後には作家・諏訪哲史さんを迎える講演会も行われ、詩の世界を深く知ることができます。どなたでも参加自由。現代詩人の登竜門と言われる栄誉ある賞の新たな受賞者を、みんなと

一緒にお祝いしませんか?(受賞詩集については、本誌P10でもご紹介しています。)

第21回中原中也賞贈呈式&記念講演

2016年4月29日(金・祝)

16:20~16:50 贈呈式

17:30~18:30 記念講演

「言葉が「出現」するとき
~中也の詩をめぐって」(講師:諏訪哲史/作家)

会場:湯田温泉ユウベルホテル松政
[料金]無料



第20回(昨年)の贈呈式の様子

ARTIST VOICE

アーティスト
ボイス

ムン・キョンウォン(アーティスト)

アーティスト、ムン・キョンウォンさんとYCAMが「未来の公園」をテーマに、様々な場所をめぐる、研究・調査して浮かび上がったことを展覧会として発表した「プロミス・パーク・プロジェクト」。プロジェクトを通じて、何度も訪れたYCAMや山口のことをムンさんはどうとらえていたのでしょうか。

YCAMはテクノロジーの解釈や視点が未来的



初めて訪れたときに見た山口は非常に静かな地方という印象でしたが、何回も訪問するうちに、山口は政治的、文化的にレベルの高い都市の歴史性を持っていると感じました。これまで私が作品を展示した多くの施設の中でも、YCAMは非常にユニークで特別なシステムを持つ機関だと思います。様々な企画・プロジェクトに参加者とYCAMのスタ

ップと一緒に共有して作っていく理想的な環境を持っています。YCAMで3年間かけて行った「プロミス・パーク・プロジェクト」では、スタッフと一緒にめぐったりサーチの旅、暑い夏の日々のドローン撮影、ミーティングやディスカッション、そして現場での設営、それらすべてが私にとってとても意味のある時間でした。YCAMはテクノロジーの解釈や視点も非常に未来的。また一緒に仕事をしたアーティストとは深い信頼関係で結ばれています。そんなYCAMが今後、さらに急速に変化する時代のパラダイムの中でどのような芸術的実践を行っていくのか、期待しています。

「プロミス・パーク —未来のパターンへのイマジネーション—

2015年11月28日~2016年2月14日
会場:山口情報芸術センター館内各所



2013年から3年間かけて、韓国のアーティスト、ムン・キョンウォンと共同で取り組んできた「プロミス・パーク・プロジェクト」。「未来の公園」をテーマに、YCAMスタッフのみならず様々な人を巻き込みながら、県内外をフィールドワークし、サーチを行った。その集大成となる展覧会が、昨年11月から今年2月14日まで行われ、フィールドワークや調査資料に基づいた作品を公開。期間中多くの来場者が訪れ、国内外から高い評価を集めた。

ムン・キョンウォン MOON Kyungwon

ソウル生まれ。梨花女子大学を卒業後、カリフォルニア芸術大学で修士号を取得。文学的なアプローチの映像やインスタレーションなど、様々なメディアを通して作品を発表。2015年は、チューリッヒのミグロス現代美術館や、ヴェネチアビエンナーレ韓国館の代表作家として展示を行う。

お先に 試写 しました



©山口放送

「ふたりの桃源郷」

(2016年/日本/87分/カラー)

[監督]佐々木 聡 [ナレーション]吉岡秀隆 [出演]田中フサ子、田中寅夫、矢田安政、矢田恵子

電気も水道も通っていない岩国市美和町の山奥で暮らす寅夫さん・フサコさん夫妻。不便ながら山での生活を心から楽しんでいる二人の姿は、何とも愛おしい。しかし着実に「老い」が二人に迫ってきます。最期まで自分たちらしく生きることを望む夫婦と、近くで両親の面倒を見ることを願う子どもたち。お互いを大切に思うからこそ答えの出ない家族の葛藤と模索が始まります。

山口放送(KRY)がこれまで長年にわたって取材・放送した番組を再編集し、映画として完成しました。被写体と同じ目線の高さで長期間にわたって密着する、これは地元のテレビ局でなければ実現できなかったように思います。夫婦と娘たちの温かいエピソードが重なっていく過程にも、特別の信頼関係を感じることが出来ます。山での暮らしを桃源郷として理想的に描いて終えることもできたでしょう。そこを超えて取材を継続したことが白眉であると思います。

「自然との共生」「老いていくこと」「終の住処」。一朝一夕には答えが出ない問いが投げかけられていきます。山に暮らす老夫婦を中心としたある家族が、こういう選択をした、ということが描かれていきます。その過程で浮き彫りになっていくのは、人間が生きて死んでいき、しかし夫婦二人の人生を超えて次の世代に「何か」を残していくこと。それこそが人生の価値ではないか。山を、常に生活の傍らに感じる山口に住む私たちにはかけがえのない一本です。

杉原永純 (YCAM シネマ担当)

2016年6月公開

※上映スケジュールはお問い合わせください。

会場:山口情報芸術センター スタジオC

[料金]前売 一律1,100円(特別鑑賞券)
当日 一般1,500円
any会員・特別割引・25歳以下
1,200円

※一言公開作品のため特別料金となります。



©山口放送

「ふたりの桃源郷」作品紹介

山口県岩国市の山中で暮らす夫婦。季節の野菜、湧き水で沸かした風呂、寢室代わりの古いバス、娘からの手紙。ようやく手に入れたかけがえのない2人の時間に、やがて「老い」が静かに訪れ…。電気も水道も通っていない山奥で暮らすある夫婦と、夫婦を支える家族を、山口放送が25年・2世代にわたり追いかけて続けた人気ドキュメンタリーシリーズが開局60周年を記念に映画化される。

My Favorite

受付前に設置された、レトロでかわいいポストです。ここから手紙を出すと、井上公園にある「帰郷」の詩碑がデザインされた風景印が押されて配達されます。近頃街では見かけなくなった丸型ポスト。たまに「本物ですか?」とたずねられますが、真偽のほどは…!? ぜひ記念館に来て確かめてみてください。

田吹紗衣 (中原中也記念館 職員)



田吹 紗衣

いらっしませ



自家焙煎ネルドリップ珈琲

540円

※和三盆チーズケーキ 450円

小さな珈琲店が提供する極上の一杯

洋服店の2階、おしゃれな服が並ぶ部屋のなかの窓際の一角に2014年にオープンした“原口珈琲”。自家焙煎の豆をネル(布)でドリップしたこだわりの珈琲が飲めると聞き、さっそくネルドリップ珈琲を注文。ペーパードリップとの違いは?と思いつつ、一口。芳ばしい苦味が口いっぱいに広がる。でもすっきりとしていて舌触りがやわらかい。なんて深い味わいなんだ!! その美味しさに感動です。珈琲通の間で知られる伝説のお店、東京の“大坊珈琲店”(13年に閉店)で6年間働いた経験のある原口さん。そこで磨いた焙煎とドリップの技を、独自の感性でさらに磨きあげ、抽出された極上の一杯が世界を広げてくれます。

原口珈琲

山口市米屋町2-35 mambo2F

TEL.083-928-5766(mambo)

営業期間:11:00~18:00(木曜日のみ13:30~18:00)

休業日:火・水曜日

GOOD GOODS



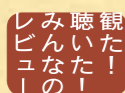
展覧会「Think Things—「もの」と「あそび」の生態系」 カタログブック

730個のあそびが生まれた プロセスを紹介

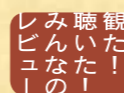
昨年7月から9月まで、YCAMのホワイエや大階段、2階のスタジオBを会場に行われた展覧会「Think Things—「もの」と「あそび」の生態系」。展覧会場のあちこちに、あそびを誘発するしかけがちりばめられていて、その場に訪れた子どもたちの自由な発想と想像力で、期間中たくさんのお遊びが誕生しました。その数なんと730個!! どんなあそびが創造されたのか、またどんなふうにあそびが作られていったのか、そのプロセスとあそびの内容を、写真とテキストで紹介したカタログブックが、この度500部限定で制作されました。みんなの「あそび」が詰まったカタログブック。YCAMでご覧いただけます。

サイズ:A5判 オールカラー48ページ

※デザインは実物と異なる可能性があります。



- 折リ・生命と詩の流れを感じる。(70代男性 「中也 折りの詩」より)
- 演奏会だともっと素晴らしいと思います。次回は山口県内のオケとコラボを期待します。(40代女性 「山口きずな音楽祭2015」より)
- 東京出身で、新宿にはよく行くので、「ああ、あそこか!」と今の新宿と照らし合わせることができて楽しかった。(30代女性 「中也の住んだ町—新宿」より)
- 古い建物を上から見るとこんなに美しく見えるのかと感心しました。(40代男性 ムン・キョンウォン+YCAM「プロミス・パーク」より)



- どんなスポーツなのか想像できませんでしたが、年齢に関係なく、熱狂的な興奮に包まれた運動会で大変有意義でした。(30代男性 「未来の山道の運動会」より)
- 当時の新宿がしのぼれた点が良かった。(60代女性 「中也の住んだ町—新宿」より)
- 期待以上の驚きのパフォーマンス。山口で小曾根さんのピアノが聴けるなんて!! 夢にも思いませんでした。(60代男性 「クリスマス・ジャズセッション」より)
- 大いに笑い、おかしくて涙が出っ放し。年初めにシアワセをもらいました!(50代女性 「バグガニ—ニューイヤーコンサート」より)

4 April

5 May

6 June

※掲載内容は2016年3月1日現在のものです。変更の場合がありますので、ご了承ください。

山口情報芸術センター (YCAM)

http://www.ycam.jp/

シネマ

毎週金曜の夜に【全曜夜のYCAMシネクラブ】、日曜に【YCAM名画座】を開催しています(※休映日あり。詳細は、YCAMポータルサイトまたは「YCAMシネマプログラム」をご覧ください。)

開催中 Rhizomatiks Research × ELEVENPLAY border Installation ver. ※土日祝のみ公開
9 10 [恋人たち][ディーバンの闘い][神様なんかくそくらえ][LIVE! LOVE! SING! 生きて愛して歌うこと]
15 17 [愛と哀しみのボレロ][ロイヤル・コンセルトヘボウオーケストラがやってくる]
22 24 [あの頃エッフェル塔の下で][カミーユ、恋はふたたび]
29 1 [創造と神秘のサグラダ・ファミリア][しもも建物が話せたら]

山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

豪華競演! 特撰落語会 林家木久扇・三遊亭好楽・林家たい平 三人会 (本誌P11参照)
22 デビュー 40周年記念コンサート・ツアー 松山千春の系譜(本誌P11参照)

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

開催中 企画展II「中也の住んだ町—新宿」 ※4 / 3プロムナード・トークあり
開催中 第13回テーマ展示「中也の本棚—外国文学篇」
20 企画展I「DADA 1916→1923 ツアラそして中也」 (本誌P10参照)
29 中原中也生誕祭「空の下の朗読会」(本誌P8参照)
22 中原中也を読む会
29 第21回中原中也賞贈呈式 会場:湯田温泉ユウベルホテル松政 (本誌P12参照)
27 中原中也を読む会
24 中原中也を読む会

シンガポール・インドネシア
22 [殺されたミンジュ][断食芸人]
28 29 [殺されたミンジュ][断食芸人]
14 15 [美術館を手玉にとった男][バンクシー・ダズ・ニューヨーク]
21 [殺されたミンジュ][断食芸人]
18 コロガールガーデン (本誌P9参照)
11 12 [ふたりの桃源郷](本誌P13参照)
16 19 [ふたりの桃源郷](本誌P13参照)
23 26 [ふたりの桃源郷](本誌P13参照)
13 人形劇団クラルテ「11ぴきのねこ ころんこ」(本誌P11参照)
30 斉藤和義 KAZUYOSHI SAITO LIVE TOUR 2015-2016「風の果てまで」(本誌P11参照)

INFORMATION

公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット 山口市文化振興財団ホームページ (要事前登録・24時間受付)

http://www.ycfcp.or.jp/

※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。



電話

チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

TEL. 083-920-6111

窓口

チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

山口情報芸術センター

※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

支払方法

クレジットカード インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

セブンイレブン

インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

窓口

※上記予約方法「窓口」参照

託児サービスについて

山口市文化振興財団では託児サービスを行っています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。お子様の食事は事前に済ませておいてください。

公演開催時

[対象]0才(6ヶ月)以上

[料金]1人につき500円、2人目以降は1人につき300円

[時間]開演の30分前から終演後30分まで

[申込方法]公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。 ※公演によっては行わない場合もございます。事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター キッズスペース

[対象]1才以上

[料金]1人につき30分150円

[時間]13:00~17:00 1回2時間まで (山口市立中央図書館休館日を除く)

[申込方法]当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any 会員募集!

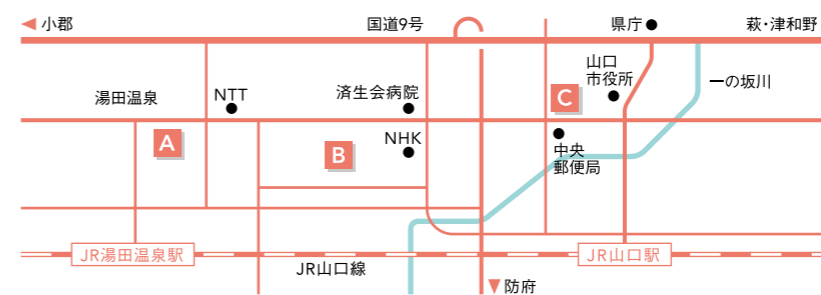
※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

[年会費]1,500円+入会金500円 ※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。

[会員期間]入会日から翌年の入会月末まで

[会員特典]チケットの先行予約および割引購入(公演によっては適用されないものもあります)、情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



公益財団法人

山口市文化振興財団 Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中園町7-7(山口情報芸術センター内) TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216 http://www.ycfcp.or.jp/ zaidan-info@ycfc.or.jp

編集後記

忙しいときは寝食忘れて働くけど、休暇になると気が抜けて一日中寝て過ごす日々。限りある人生の瞬間瞬間をなんて無駄に使っているのか!! このままじゃいかん! 春から何か始めようと思いついた。先日、浅草演芸ホールで寄席を初体験。満員の場内ではしばらく立っていると、ここ空いたよと常連さんが手招き。下町の笑いとおにぎりにふれた1日でした。市民会館での特撰落語会も楽しみな! (T1)

A 中原中也記念館

〒753-0056 山口市湯田温泉1-11-21 TEL. 083-932-6430 / FAX. 083-932-6431 [開館時間]9:00~18:00(入館は17:30まで) [5~10月]9:00~17:00(入館は16:30まで) [11~4月] [休館日]月曜(祝日の場合は翌日)、毎月最終火曜(変更あり)、年末年始 http://www.chuyakan.jp/ chuyakan@c-able.ne.jp

B 山口情報芸術センター(YCAM)

〒753-0075 山口市中園町7-7 TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216 [開館時間]10:00~20:00(夜間イベントのある日は22:00まで) [休館日]火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始 http://www.ycam.jp/ information@ycam.jp

C 山口市民会館

〒753-0074 山口市中央2-5-1 TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488 [開館時間]8:30~17:15 [休館日]年末年始 http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/ shiminkk@c-able.ne.jp

検定 中 答 え A. 古本屋で手に取った (後年の『詩的履歴書』に「秋の暮、寒い夜に丸太町橋際の古本屋で『タダリスト 新吉の詩』を読む。」と書かれています)

観 覧 聴 取 り 初めて知ったグループだったが、あまりの素晴らしい歌声と若さに圧巻でした。聴きに来てよかったです。(60代女性 「山口きずな音楽祭2015」より)
どこかにスポットを当てた形で詳しく展示するのはとても新鮮でした。(50代男性 「中也の住んだ町—新宿」より)
「きずな」は本当にいい歌ですね。感激。(50代女性 「山口きずな音楽祭2015」より)
おもしろい視点でした。これからの時代の道筋にひとつの提案として有りだと思いました。(20代女性 ムン・キョンウォン+YCAM「プロミス・パーク」より)



公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

